

座談会

三鷹SOHO倶楽部って何？

～今、ようやく明かされる SOHO ガイド発行元のプロフィール

最近活動も活発化し、メディア露出度も増えてきた三鷹SOHO倶楽部。SOHO有志が集まって運営している任意団体なのだが、行政やNPOと混同されたり、どうも「よくわからない団体」として捉えられているような気配も見受けられる。



今回は本ガイド3号目の発行を記念(?)して、三鷹SOHO倶楽部の成り立ちと沿革、そこから生まれた独特の気風に迫ってみたい。

三鷹SOHO倶楽部の前身は「パイロットオフィス検討チーム」

— 本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

実は、森下さんと私はメンバーでありながら、途中から巻き込まれたという関係でそもそも三鷹SOHO倶楽部がどうしてできたのか、何をやってきたのか、よく知らないんですよ(笑)。そこで創立当時のメンバーの皆さんに、そのところを突っ込んで聞こうと思っています。

森下 そうそう。私も実はこれを機会に

知りたいと思ってたんですよ。

— まず、発足の経緯というか、なぜ三鷹SOHO倶楽部ができたのかということからお聞きしたいと思います。

河瀬 97年8月に、三鷹市SOHOパイロットオフィスの検討チームが発足したんですよ。そのへんからですね、当初のメンバーが集まってきたのは。

古川 えっ、あれってそんな名前がついていたんですか？「宇山チーム」だと思っていた(笑)

— 当時、SOHO CITYみたく構想(注1)の立役者の一人といわれた宇山さん(注2)が、検討チームを率いていたわ

注1: 三鷹市のSOHO支援施策。97年に基本コンセプトが打ち出された。

注2: 宇山正幸さん。当時、三鷹市まちづくり公社主査としてSOHO支援を担当していた。現在、三鷹市情報推進室室長。

けですわね。

河瀬 宇山さんがチームの座長兼進行役で、最初は面白かったんだけど、途中で三鷹市のOK、つまり市長の決定がなかなか降りずに、数ヶ月中だるみしたんだよね。一時期夢のマルチメディアといわれたキャプテンシステムやINSが、実際には思うように普及しなかった前例もあったから、行政としても慎重になったんでしょう。

古川 私が覚えているのは、当時宇山さんがSOHO向けのアンケートを実施したことですね。97年の1月か2月か、寒い時だった。私は三鷹市がSOHO向けのアンケートをやるというので、じゃあ、三鷹に住んでいるしやってみようかなと思って回答したら、ある日「すみません、こういう会合をやるんですけれど来ませんか」と連絡が来たんです。

そこで宇山さんにつられて参加したと。

河瀬 僕が宇山さんと知り合ったのは、「手のひら公園」ワークショップ^(注3)ですね。当時の三鷹市まちづくり公社の職員が、僕のことを宇山さんに紹介したらしくて、宇山さんが紺色の背広を着て事務所に会いに来たんです。

— 宇山さんが三鷹SOHO倶楽部設立の影のキーパーソンなのは間違いな

いみたいですね。

河瀬 そう(笑)「宇山チーム」に続々といろんな人が集まってきたわけですよ。でも、そのきっかけは色々だよな。

今日はいないけど、運営メンバーの斉藤さんは、その頃公社でアルバイトしていた友人の家の離れに住んでいて、「おまえもSOHOだろ」って紹介されたらしいし。デザイナーの並木さんもこの

チームから参加したよね。第一回のフェスタで大活躍する平場さんは日経の記事を見て宇山さんに連絡して来たはずだから、もう少し後かな。— 私は三鷹SOHO倶楽部の存在を知らずと前に、斉藤さんが講師をしていたマックとウインドウズのデータ互換講座に出たのを覚えていますよ。

じゃあ、本当にみんなばらばらに集まってきたんですね。

お互いに知り合いでもなかった？

河瀬 そう、だから最初はみんな戦々恐々としていたよね。

古川 えっ、結構みんな好き勝手言っていたような気がするけど(笑)。

河瀬 僕らのほかにも、建築系ではレックさん、デルファイ研究所さん、内田洋行さん、ココヨさんなどの企業も参加していたかな。



河瀬 謙一

三鷹SOHO倶楽部
代表
(華麗堂代表)

**続々といろんな人が集
まってきた。きっかけは
色々だけど。**

注3: 三鷹台の住民参加型まちづくりワークショップ。

— つまりSOHOパイロットオフィスをどう作るかという、具体的な案件があって人が集まっていたというわけですね。当時の検討チームの皆さんから、SOHOとしての立場から意見を言って欲しいということだったのでしょうか？

河瀬 多分ね。僕はそのとき初めて、「へえ、自分はSOHOなんだ」って思ったけどね(笑)。そんなもんですよ。

— その頃は定期的に会合をしていたんですか？

古川 一ヶ月に一度くらいだったかな。

河瀬 楽しかったよね。

森下 その頃NHKが検討チームを取材したビデオがパイロットオフィスに残っていますよ。今見るとみんな若い(笑)。

河瀬 この頃、検討会の後の飲み会で今の市長の清原さんに会っているよ。当時はルーテル大の教授で、それから東京工大に行って学部長になって、三鷹市長になった。

古川 歴史を感じますよね。

検討チームの解散

三鷹SOHO倶楽部の結成へ

— 初対面の「おすまし」が取れてみん

なが親密になってきたのはどの辺からですか？

河瀬 市の決定が降りずに3、4ヶ月足踏みしていたころかな。やっぱり、ミーティング後の飲み会(笑)。

確か斉藤さんは羽田野さんのオフィスに遊びに行ったんじゃないかな。羽田野さんは、各地のSOHO支援の現状をよく知っていた。

古川 羽田野さんは当時オフィスが永山の方で遠かったんですよ。SOHO事情の詳しさを買われて参加したんですって？

河瀬 たしか内田洋行の後藤さんが、「もうそういうSOHOスタイルで仕事をしている人がいるから」って連れてきたんじゃないかな。

— この頃はまだSOHO倶楽部とは名乗っていないんですね。

河瀬 それは検討チームが解散したあとだから。

森下 年表を見ると98年の10月に「上記検討チームの物好きが集まり三鷹SOHO倶楽部を発足」とありますが、10月に何があったんですか？

河瀬 チームの解散があつて、「せつかくこういう人たちがいるんだから倶楽部のような集まりを続けていって、新しく入ってくるSOHOの受け皿にもなれると



古川あづさ

三鷹SOHO倶楽部

副代表

((株)日本情報技研代表)

**結構、みんな好き勝手に
言っていたような気がするけど。**

注4: 1998年12月に開設。正式名称は、三鷹市SOHOパイロットオフィス。三鷹市のSOHO支援施策のための実証実験を行う場でもあり、当時、行政初のSOHO支援を行う施設として話題となった。

いいね」という話をビール飲みながらしていたの。

三鷹SOHO倶楽部という名前は、みんな考えてきて投票したんですよ。「電腦トキワ荘」とか7つくらいあって、ふたを開けたら一番平凡な名前に決まって、ちょっとがっかり(笑)。

古川 いいんじゃないですか。電腦トキワ荘では若い人にはわからないし(笑)

— で、その後、パイロットオフィスが開設^(注4)されて、河瀬さん、羽田野さんがSOHOの相談を受けるコーディネータになったんですよ。

河瀬 すごくどきどきしたのを覚えている。「どういう相談が来るんだろう。自分の経験したことはしゃべれるけれど、それ以外の難しいことを聞かれたらどうしよう」って(笑)。

— しかし、メンバーは、当時、誰もパイロットオフィスに入居していませんね。今でこそ森下さんと羽田野さんが入居していますが。

河瀬 もうすでにみんな事業をして、オフィスもあったからね。僕は実家がオフィスだけ。

古川 私も、まだ売り上げ規模も小さいから家でいいやと思っていたし。

— まさにHOME OFFICEですね。

この頃、森下さんがパートでパイロットオフィスの受付にいたんですね？

森下 そうですね。私はもともと主婦でしたから、最初は受付って来客の対応や電話を受け取るだけだと思っていたんですが、甘かった(笑)。

堅苦しい枠がない軟弱な組織を選択

— いったん整理しますと、三鷹SOHO倶楽部発足当時のメンバーは、ほぼ検討チームのままですか？

河瀬 古川さん、平場さん、並木さん、斉藤さん、武内さん、後藤さん、羽田野さん、そして僕の10人だったかな。

この頃、SOHO倶楽部の形態についてずいぶん悩んだんです。全国で協議会方式が流行っていて、会費を取って協議会を作る形態が多かった。で、しばらく悩んで、会費無料、入会金なし、その場精算、堅苦しい規約なしに決めた。

— それはなぜですか？

河瀬 ひとつはお金を管理するのが面倒くさかったから。それにお金をもらったら、会員サービスをしなければいけないし、何をすればよいのかわからなかった。



森下ことみ

三鷹SOHO倶楽部
運営メンバー

((有)そーほっと代表)

ここ2、3年ですね。SOHOが集まっているという実感があるのは。

SOHOはいわゆる業種ではなくて形態だから、必要とすることは様々だろうし、全部なんて応えられない。それに、協力会社が筑波にあった古川さんに筑波の状況を聞いていたので、やがてパイが小さくなったときに内部分裂するんじゃないかな、とも思ったし。

古川 筑波はバブルがはじけた後遺症で、研究所の入札業者の仕事をやっていけば何とか食べていけるけれど、それから漏れた人は東京から仕事を引っ張ってくるしかない。だから地元で同じ仕事がぐるぐる回っている状況だったんです。

あそこは産官学共同の声は上がるんだけれど、なかなかビジネスにつながらないのね。だから筑波万博の頃から地元密着でやっているところは何とかなっているけど、その頃実家が茨城にあるからといって企業からSOHOとして独立した人は仕事を干されている状況があったんです。

河瀬 会員同士でパイの奪い合いをするようになったら終わりだなと思って、協議会方式はやめにしました。規約はね倶楽部の通帳を作るために必要だから作ったのをそのまま流用(笑)。お金がかかる時は、その場で割り勘だし。

森下 いいですね。わかりやすくて。

河瀬 でも行政側から見たら、ものすごく軟弱な組織に見えるみたい。会費も

なければちゃんとした規約もないし、何をやっているんだかよくわからないと…

— でも確かに、自分たちがそうだからって、三鷹や周辺のSOHOの実態やニーズとかを把握できるわけじゃないですもの。無理に協議会にしなくてよかつたんじゃないですか。

森下 私も受付業務について3年くらいは、人の出入りが少なくて「この辺にSOHOはいないんじゃないか」みたいな感じを受けていました。ちょうど当時マスコミでは、三鷹のSOHOがすごく取り上げられていたんだけど、それとはだいぶギャップがありました。

SOHOが集まってくるといより見学の方の方がはるかに多かったです。むしろここ2、3年ですね。SOHOが集まっているという実感があるのは。

SOHOフェスタを企画運営 ガイド発行まで

河瀬 パイロットオフィスができた年の暮れ、12月の半ばに、宇山さんが「SOHOのイベントをやりたい」と言い出したんだよね。

古川 何かやりたいから「年明けまでに企画を考えてほしい」って(笑)。実質1～2週間しかないの。

森下 それで2月に第一回SOHOフェスタ^(注5)開催だったんですね。

注5: 正式名称は、SOHOフェスタ in MITAKA。SOHOをPRするための事業者見本市。1999年2月を皮切りに毎年行われている。

古川 そう。年度内にやりたいということで、急遽2月になったの。

河瀬 それで吉祥寺の第一ホテルの喫茶室に1月早々に三鷹SOHO倶楽部の招集をかけたのを覚えている。

— 何で第一ホテルなんですか？

河瀬 SOHO＝お金がないという図式になってしまうのはよくない

と思って。お茶を飲むときくらいゆったりしようよ、という反発心があった(笑)

— でも宇山さんは、その軟弱なわけのわからない組織にあえて任せようとしたんですね。いくら検討チームで一緒だったとはいえ。

河瀬 おそらく、「実際に、こいつらにやらせてみたらどうなるんだろう」と試す感じもあったと思うよ。僕らも初めて知らない人と一緒に仕事をする時はそういうところがあるでしょう。仕事をやってみて初めて実力がわかる、みたいなの。

森下 宇山さんの英断だったんですね。その頃からもう市内のSOHOと企業のマッチングを考えていたのかしら？

河瀬 行政としては、SOHO CITY推進協議会^(注6)や市内の商工業者との連携やマッチングというストーリーはあったんでしょね。

古川 でも官の主導には限界がありま



第1回SOHOフェスタのスタッフ。中心の男性が宇山さん

すからね。

河瀬 先にモデルを考えてしまうからね。でもそんなに理想的には物事は進まないし。

実は、2000年にオープンした三立SOHO支援センターの検討チームにも倶楽部が参画したんだけど、そういう感じはしたね。途中で産業プラザ^(注7)の企画が始まって、三立の検討チームは尻切れトンボになって残念でしたが・・・

— なるほど。私は倶楽部に絡んだのは5回目のフェスタからなんで「最初のフェスタは大変だったんだよ」という話をずいぶん聞かされたんですけど。

それで、年明けに企画を出してその後どうしたんですか。

河瀬 何回か打ち合わせをするうちに「イベントだから人が来てくれないと話にならないよね」ということになって、平場さんが「闇夜の集蛾灯」説^(注8)を出し

注6: 三鷹のSOHO支援に対処援団をつとめる企業の集まり。

注7: 三鷹市のSOHO支援の中核施設。TMOの(株)まちづくり三鷹もここに入っている。

注8: 闇夜の街灯に蛾が集まって来るように、目立つ企画をフェスタの軸にしてお客さんを集めようとした。

た。人を集めるにはSOHOでは弱いかから企業出展だ、ということになってSOHO CITY推進協議会に出展要請をした記憶がある。あの時は、まず企業がいてのSOHOだったんだよ。

森下 へ～え！

河瀬 当初、この時の想定会場は、市内某企業のショールームだったんだけど、色々あって使えなくなってしまった。結局、会場は市の公会堂の別館^(注9)になった。駅から遠いし、しかも展示は2階だったんだよね。事情を知っている人から「ここで色々なイベントをやったけど、人が来たことがない」とおどされたもの(笑)。

古川 そうですね。セミナーが1階で展示は2階。

でもふたを開けてみたら、結構お客さんが多かったんですよ。

河瀬 当日はすごく寒くて、開始直前に雪になった。それでも、ほぼ600人入場者があって、ほっとした。

— このとき三鷹SOHO倶楽部が初めてコラボレーションでイベントを実施したんですね。そのあと、その年の11月に第2回、翌年に第3回のフェスタを開催し、4回目は予算縮小のためノータッチで、また5回目からやっている。

河瀬 第5回は産業プラザが工事中で、すごい状況だった。溶剤が目にしみる中、涙を流しながら展示をしていたね。

古川 工事のスタッフがヘルメットかぶって行き来する隣でね(笑)。

河瀬 このとき初めてSOHOガイド^(注10)を発行したんだ。ずいぶん前から古川さんのところにもSOHOのデータベースを作りたいという話はあったみたいだけれど。

古川 結局印刷物じゃないと、誰も見ないんじゃないか、ということでペンディングになっていたんですよ。そうしたらいつの間にかに斉藤さんが作ってしまった。やられちゃった(笑)。

河瀬 印刷代がなくて、三鷹SOHO倶楽部の有志が費用を出し合って、とりあえず出しちゃったんだよね。よく80件も集まったよね。実は最後の80件目が三鷹SOHO倶楽部なんだけど(笑)。

最初はぜんぜん集まらなくて、締切間近にはなんと20件しか原稿が集まらなくて。みんなでノルマを決めてわーっとなを掛けていった。だから80件になった時は、すごくほっとしたのを覚えている。森下さんにも入居者に声をかけ



注9:いわゆる公民館。別館は本館の裏手にあり、駅から遠く、目立たず、設備が古いのが難点。

注10:正式名称は三鷹とその周辺のSOHOガイド。三鷹という地域ではなく、人の繋がりでSOHOをPRするためのデータブック。

てもらって、すごく助かった。

— あの時は、直接出向いたり、電話で声をかけてお願いする大切さを痛感しましたね。それに、斉藤さんが出来上がり見本をつくってから、イメージしやすくなって急に参加が増えました。

河瀬 具体性は大事だよ。ガイドも好評で、紙の媒体の力を再認識したね。そして何より、みんなで協力してワーツと動けば実現できるんだということがよくわかった。

～メンバーの武内さんが
遅れて登場～

— ところで武内さんは、どういうきっかけで参加したんですか。

武内 僕は当時、福岡と東京を行ったり来たりだったんですよ。福岡で店をやっていたお袋の老後のことを考えて

仕事の基点を福岡に移そうと考えていたんだけど、仕事のメインは東京だから、こちらにも足場が欲しかった。

そこで色々調べたら、パイロットオフィスが使えるかな、と。宇山さんにコンタクトを取って「詳しいことを教えてください」といったら、「よかったらミーティングがあるから来ませんか」といわれて、立ち上げ準備段階から顔を出すようにな

ったの。

古川 でも、武内さんも入居せずに、井の頭に自宅兼仕事場がありますよね。

武内 そのあと、お袋が逝っちゃったんで、福岡に移る必要がなくなったからね。

— 皆さん、色々な理由で集まってきたんですね。

森下 素朴な疑問なんですけど、その頃の倶楽部のメンバーって、固定していたんですか？

武内 わかんないんだよね、それが(笑)

河瀬 あえて言えば、古川さんに立ててもらったメーリングリスト^(注11)のメンバーかな。対外的にはそういうことになっているよ(笑)

森下 でも現在も、メーリングリストのメンバーであっても、自分がSOHO倶楽部のメンバーだと思っている人も、そう

でない人もいますよね。

— 私が河瀬さんに取材に行って、引っ張り込まれた時は、入会書類があって「これに書いてね」って言われましたが。

河瀬 そういう時期もあったね。面倒くさいからやめちゃったけれど(笑)。

検討チームからのメンバーはそういうのは書かなかったし。それを書いたの、



武内邦愛

三鷹SOHO倶楽部
運営メンバー

(Stasiun Langit 代表)

**福岡に移ろうとしたけど、
主な仕事は東京だから
足場が欲しかった。**

注11: 三鷹SOHO倶楽部が運営するメーリングリスト。仕事以外にも趣味や四方山話も流れている。登録者は約30名。現在、メンバーは募集していない。

もしかして萩谷さんと僕だけかも(笑)。その後も紹介者がいれば、まず大丈夫だろうということで。

— まあ、本当によい意味でいい加減な組織ですよ。

河瀬 三鷹SOHO倶楽部のイメージは軟弱だって最初に言ったけれど、それはみんな仕事をもっているからだよ。忙しい倶楽部活動はできないだろうなというのがあって、まあ、鎮守の森みたいに、いつもそこにあって、たまたま暇ができた人がお茶を飲みに来たり、お酒持ってきたり、それでいいよね、と考えていたから。

NPO法が施行されるちょっと前かな、三鷹SOHO倶楽部をNPOにしたらどうかという話が宇山さんからあったんだけど、NPOについて調べてみても僕らの倶楽部にとってのメリットがよくわからないし、普段がこんなだから決算のために活動するのは、ちょっと違うんじゃないかなと思ったのでやめた。

人の動きに伴い

三鷹SOHO倶楽部も第二期に移行

河瀬 それから平場さんが忙しくなったり、並木さんが引っ越して大学の先生になったり、古川さんの事務所が台東区に移ったりして、最初のメンバーの活動がいったん中だるみというか一区切り

したのが、第4回フェスタの頃かな。産業プラザに視察のお客さんが移って、パイロットオフィスが閑散としたころだよ。

森下 そうそう。コーディネータも産業プラザに移って、本当に人が来なくなりましたね。

古川 その頃は市もSOHOから市民TVとか市民活動系に移っていた時期でもありますね。

河瀬 産業プラザは駅から遠いこともあって、相談者も少なくて。水曜^(注12)になると斉藤さんが遊びに来て、一緒にお昼を食べていんだよ。なんせ斉藤さんは産業プラザから徒歩 30 秒のところに住んでいたから(笑)。

そこからランチョンミーティング^(注13)が始まった。ランチならみんな来るかな、ということで。そこから新しいメンバーが増えて、いろいろ動き出すんだよね。

— その頃から「SOHOサロン」、「手作り研究会」や「SOHO茶会」、そして「日



SOHO茶会の様子。2003年1月に武内宅にて

注12: 毎週水曜は、河瀬さんがコーディネータで産業プラザにいる日。

注13: 時間のある人が集まり、昼食を取りながら仕事の話や四方山話をする会。昼食前後に行う場合は、SOHOサロンという呼び方になる。

本の心研究会」、「有言実行の会」など倶楽部内で自主活動が始まったんですね。

河瀬 何か面白いことをやりたいね、という気持ちがあった。第5回のフェスタあたりからは、SOHOガイドも出したし、各地のSOHO団体との交流も増えたり、「有言実行の会」のように自分のビジネスを磨こうという活動も増えてきた。

— まずは、三鷹SOHO倶楽部が何なのか、わかりにくくなるわけですね(笑)

河瀬 SOHO倶楽部全体で動くんじゃなくて、この指とまれ方式で、やりたい人が率先して動いていくからね。

森下 でも、あまり聞かないですね。こういう形式の組織って。

河瀬 ギリギリでもとにかく自分の仕事で食べられている人が集まっているところがポイントだろうね。仕事やお金の分配という生々しいところが入ってこないから。確かに行政からの委託も受けているけれど、本業で稼げば困らないからね。

ゴーイング・マイウェイの形がいいんじゃないかというのは、もともと宇山さんのスタンスでもあったんだよ。きちんと組織を作って、やらないといけないことが増えて、それに縛られるちゃうのは本末転倒かなと思った。

古川 森下さん、どうですか？ SOH

○倶楽部の謎は解明されました？

森下 解明というかなんというか、なんだ見てきた通りかって(笑)。期待した私がバカだったというか・・・でも結局、組織の枠組みより、皆さんのお人柄が滲んでいるというか。

河瀬 お人柄…(笑)

森下 でもこれから三鷹SOHO倶楽部は「SOHOプラザ^(注14)」も運営するわけですし、対外的にもっとかっちりした組織にするつもりはないんですか。

河瀬 ぜんぜん考えていなかった(笑)。事業が増えたら必要に応じて、やりやすい形態をとってほしいと思う^(注15)けれど、SOHO倶楽部自体は「鎮守の森」として残しておきたいかな。

古川 やっぱ三鷹SOHO倶楽部は、変にお金のおいさをさせないままがいいですよ。

河瀬 それがないから、色々楽しくやれてきたわけだしね。

— 結局、軟弱なままでよい、形よりも中身いうところに落ち着いたようですね。結局、私も分かったような分からなかったような・・・

本日は皆さん、ありがとうございました。

2005年1月28日

於三鷹市SOHOパイロットオフィス

インタビュー:萩谷美也子

注14: 2005年4月にオープンするレンタルオフィス。三鷹SOHO倶楽部内のプロジェクトチームが企画運営する。

注15: プロジェクトによってはLLP・LLCなどの形態も検討中。

座談会参加者プロフィール

●河瀬謙一 三鷹SOHO倶楽部代表。三鷹市在住。趣味は園芸と散歩。産業プラザのコーディネイターとして、水曜日に勤務。不定期に「SOHOサロン」を開催し、「好きなもの、面白いと思うものを作って売ってみよう」と声をかける。現在、万華鏡の魅力に取りつかれ、その製作・販売を行う華麗堂を主宰。(有)ビッツアンドカンパニー代表取締役。

●古川あづさ 三鷹SOHO倶楽部副代表(チーママ)兼メーリングリスト管理人。三鷹市在住。趣味は音楽、旅行、美術館&博物館めぐり、食べ歩き。東京都内or多摩地区で「ドライフルーツのドリアン」を売っているお店を御存知の方、御一報下さいませ。(株)日本情報技研代表取締役。

●森下ことみ 三鷹SOHO倶楽部運営メンバー。三鷹市在勤。三鷹駅前にあるSOHOパイロットオフィスの受付アルバイトから始まり、入居者のニーズを満たしていく中で会社を設立。SOHOのお母さんのような気の利くサービスが特徴。趣味は歌舞伎、お寺(仏像)巡り。(有)そーほっと代表取締役。

●武内邦愛 三鷹SOHO倶楽部運営メンバー。三鷹市在住。音楽関係の翻訳(訳詩・字幕など)を続けるかたわら、ここ数十年インドネシア・バリ島の文化に傾倒し、機内誌のライター、旅行ガイドブックのほか、バリ文化についての講演なども行う。最近のマイブームは「無国籍な庭造り」。Stasiun Langit 代表。

三鷹SOHO倶楽部の主な活動プロフィール

- | | | |
|-------|-----|--------------------------------------|
| 1997年 | 夏頃 | 三鷹市SOHOパイロットオフィス検討チームが発足 |
| 1998年 | 3月 | 同第3分科会がSOHO CITYを盛り込んだ最終報告書を市長に提言 |
| | 9月 | 同検討チームの解散 |
| | 10月 | 三鷹SOHO倶楽部の発足 |
| | 12月 | 三鷹市SOHOパイロットオフィスの開設 |
| | | 河瀬がSOHOコーディネーターに就任 |
| | | SOHOフェスタの依頼 |
| 1999年 | 1月 | 吉祥寺第一ホテルにフェスタチームが参集 |
| | 2月 | 第1回SOHOフェスタを実施 |
| | 4月 | 三立 SOHO 支援センター検討チームに参画 |
| | | ～この頃、倶楽部が中だるみする～ |
| 2001年 | 5月 | SOHOサロンの開始 |
| | 8月 | ランチョンミーティングの開始 |
| 2002年 | 5月 | 手づくり研究会の開始 |
| | 11月 | 手づくり研究会発表会の開催 |
| 2003年 | 1月 | SOHO茶会の実施 |
| | | 日本の心研究会の開始 |
| | 3月 | 第1回目の三鷹SOHOガイドを発行 |
| | 4月 | SOHOベンチャーカレッジの講師に代表の河瀬と副代表の古川が就任(継続) |
| | 12月 | ISICO の宮前さんが倶楽部の活動をヒアリングに来られた |
| 2004年 | 2月 | 河瀬が第3回ホームページコンテスト旭川の審査委員に |
| | 3月 | 有言実行の会の開始(株)キャラウィット代表米澤さんを囲んでの放談会を開催 |
| | 6月 | 八王子のSOHOとの交流会を開催 |
| | 11月 | XOOPSでSOHOコミュニティ「三鷹ブレインズ」を構築 |
| 2005年 | 4月 | レンタルオフィス「SOHOプラザ」を開設予定 |